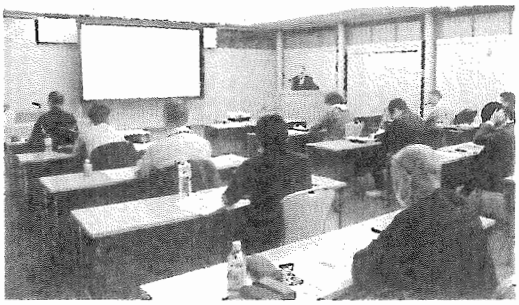
最新の技術動向等学ぶ

日測協道支部　旭川でセミナー

【旭川発】日本測量協会北海道支部（橋本幸支部長）は6日、旭川市大雪クリスタルホールで地理空間情報セミナー「測量・地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナープログラム」を開催した＝写真＝。旭川や帯広、岩見沢などの会員企業から技術者17人が参加し、五つの講義を受講。最新の技術動向や技術を生かすためのスキル、品質確保のための取組など様々な情報について見識を深めた。



日測協では、技術力向上に向けたセミナーを全国18ヵ所で毎年開催しており、旭川でのセミナーは2年ぶりの開催となる。

今回のプログラムは①測量技術講習等の概要②地域に根ざしたＵＡＶによる測量・調査③技術提案書とその作成方法④測量技術者が上位資格を取得するために⑤公共測量成果の品質管理等―の5講座。①については同協会測量技術教育部の加川亮部長、②③④は瀬戸島政博顧問、⑤は道支部の小枝登技術センター長が講師を務めた。

開催あいさつに立った加川部長は、セミナーの概要や講義内容に触れ「皆さんのスキルアップに少しでも役立てるよう、毎年開催している。長丁場になるが、最後まで聞いてほしい」と呼びかけた。

引き続き、加川部長が講義。測量・地理空間情報関連の最近の話題として、測量法の改正や、次期地理空間情報活用推進基本計画（第5期）、測位サービスに用いる準天頂衛星システムの体制変化などを解説したほか、2025年の作業規定改訂等や同協会が実施する講習会について紹介した。

また、瀬戸島顧問はＵＡＶによる測量・調査について、現在のＵＡＶ技術や利用例、今後期待される利活用方法など紹介した上で「新しい技術について調べ、いち早く取り入れることが何より重要。時には測量以外の分野も見ていなければならない」と強調。測量データを調査解析や施設設計、地域防災計画。防災学習等に活用するなど「地域対応型の仕事から、地域密着型の仕事にしていく努力が必要」と話した。

このあと、小枝センター長が品質確保の重要性を訴え、機器検定・成果検定の内容等を紹介した。